

2016 年度湘南藤沢学会「研究助成基金」成果報告書

The 5th International Conference on Knowledge Creation and Intelligent Computing
2016(KCIC2016)でのポスター発表

慶應義塾大学 環境情報学部 4 年 川元杏珠

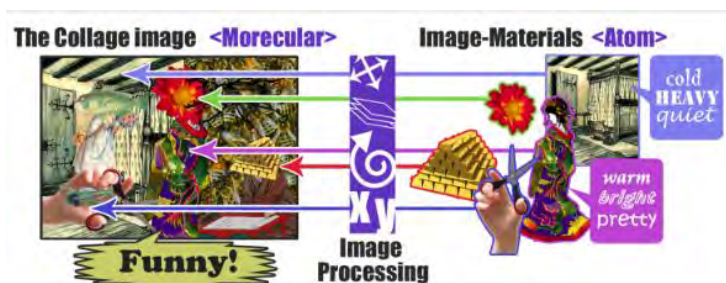
1. 活動日程・会場

日程：2016 年 11 月 15 日 ～ 2016 年 11 月 17 日

会場：Indonesia, Manado

2. 活動の目的

本活動の目的は、The 5th International Conference on Knowledge Creation and Intelligent Computing 2016(KCIC2016)にて、自身の筆頭著書論文である“A COLLAGE IMAGE CREATION & “KANISEI” ANALYSIS SYSTEM BY COMBINING MULTIPLE IMAGES “ に関連するポスター発表を行い、本研究の新規性や応用可能性について国際的な場である当該学会で研究者らに意見をj得ることである。



コラージュ作品とコラージュに使用する素材と感性（印象）との関係を表した図

本研究は、複数の画像を組み合わせた「コラージュ」という作品によって表現された「人間の感性」を扱う。

目に見えない人間の感性を、目に見えるコラージュで表現することにより、他者の感性を理解・共感したり、曖昧な人間の意図を判断出来るようなシステムを構築することを目指している。

感性は人それぞれであるため、これを研究対象とするならば、多様なバックボーンを持つ人々とコミュニケーションをとり、そこで得た知識や感覚を研究内容に反映させなければならない。したがって、本研究で扱うシステムの有用性を高めるために、国際学会である当該学会への参加は必要不可欠だと考えた。

3. 活動の成果

The 5th International Conference on Knowledge Creation and Intelligent Computing 2016(KCIC2016)にて、自身の筆頭著書論文である“A COLLAGE IMAGE CREATION & “KANISEI” ANALYSIS SYSTEM BY COMBINING MULTIPLE IMAGES” に関連するポスター発表を行った。

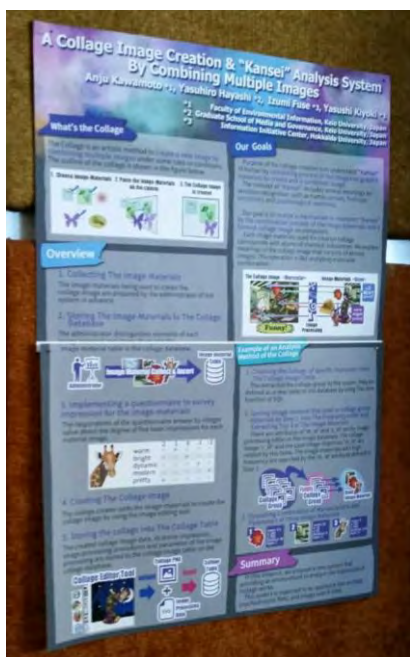
ディスカッションでは、本研究の新規性や有用性をアピールしたことと、コラージュについての国際的な認知度を確認が出来た。

インドネシア・マナドの学生には、日本ほど「コラージュ」という言葉が流通していないという知見を得た。

国際的な場で研究を発表する時は、コラージュとはどんなもので、何に活用されるのかといった基本的な部分を丁寧に説明することが重要だと感じた。

ポスターにはなるべく図を多用し、言葉を介さずとも通じるようなデザインにしたお陰で、簡単な英語の説明だけでも研究の主旨やシステム構造を理解していただけた。その結果、BEST POSTER AWARD を受賞できた。

また、自身の研究と関係するデータベースについての研究発表を聴講した。



左：会場に設置したポスター

右：BEST POSTER AWARD の賞状

4. 今後の発展

今回の学会で得た知見や意見を研究に反映させる。具体的には、国際的な視点を考慮したデータベースのデザインを再考する。そして、卒業プロジェクトにおける論文の精度をより高める。2017年に開催される国内の学会で、新たな成果を口頭で発表するべく、引き続き多数の有用な実験データの収集に注力する。

5. 謝辞

本学会の参加にあたり研究のご指導をいただいた、清木康教授、林康弘特任講師に深く感謝致します。また、資金面でご援助いただきました湘南藤沢学会に厚く御礼申し上げます。